

自らの痛みから子どもの痛みを知る...

2000年5月3日13時35分頃、九州自動車道太宰府インターチェンジ付近で、佐賀市発・天神バスセンター行き的高速バスがバスジャックされました。犯人は刃渡り約40センチの牛刀を持った17歳の少年で、バスを広島市内まで走らせ、逮捕されるまでに3人を刺し、うち1人は亡くなられてしまいました。

この事件は、1997年に発生した神戸連続児童殺傷事件に次いで、「1990年代以降の日本の少年犯罪凶悪化を象徴する事件である」とも言われます。また、この事件の直前には愛知県豊川市で17歳の少年が面識のない主婦を殺害する事件が起こっており、両事件の「犯人が17歳」という共通点をマスコミが過度に強調し、17歳(あるいは10代)に対する社会的偏見まで生みました。この事件以降も、残念ながら少年犯罪はとどまらず、少年たちに厳罰化を求める社会の声が大きくなっています。

そのような中、この事件の被害者として自らの極限の体験を語りつつ、その体験の中で感じとった犯人少年の心の傷を訴え、少年犯罪に対しては安易な厳罰化ではなく事件の背景を考えるべきだという主張を続けておられる方がいます。

佐賀市在住の山口由美子さんです。

傷ついている子ども どう守ればいいのか



バスジャック被害者 山口さん講演

見

自分の娘も心を病み、不登校だった。バスの中の気配で少年も同じだと思っただ。「娘には励ましていたつもりで、実は苦しめていた」

「司法と人権」をテーマにした大牟田市主催の冬の人権連続講座の1回目。山口さんはバスの中の出来事から話し始めた。「牛刀で切りつけられ、死ぬかもしれない」と感じながら、加害者の少年のことを、「この子は心が傷ついていると思った」

「こんな社会をつくったのは私たち。大人社会で傷ついている子どもたちをどう守ればいいのか」。00年の西鉄高速バス乗っ取り事件で重傷を負った佐賀市の主婦山口由美子さんが7日夜、大牟田市で講演した。

少年の心 思い量り 社会に問いかけ

人権センターでは10月に漫画家の石坂啓さんをお招きし、「おとなの責任」というテーマで公開講座を行いました。その続編として2月27日(火)にこの山口由美子さんをお迎えし、「傷ついている子どもと…(仮題)」というテーマでの公開講座を行います。ぜひご参加ください!

(文:有田)

もう一度、「一人ひとりの人権を大切にすまち」について考える

前号の「OH! REC 4号」を読まれたある市民の方から電話があり、「書かれた内容の一部が正確でない。」という、次のようなご指摘をいただきました。

4号の『一人ひとりの人権を・・・』という記事の中で、「車いすマークのステッカーが車に貼ってあったら身体の不自由な人が乗っている」というように書かれているが、正しくない。あのステッカーには法的な効力はなく、カーショップなどに行けば売っていて、だれでも貼ることができる。だからステッカーが貼ってあっても身体の不自由な人が乗っているとは限らない。

本当に必要な人には警察署から許可証が発行され、駐車する際にはその許可証を運転席の前に置いて、外から見えるようにしておかなければならないようになっている。

電話をいただいた後、問い合わせたり、調べたりしてみたところ、ご指摘の通りでした。ありがとうございました。



最近あちらこちらで見かけるようになってきたこのマークは、「しょうがい」のある方が利用できる建築物や公共輸送機関であることを示す世界共通の国際シンボルマークで、車いすを使う人だけでなく、「しょうがい」者全般を表しているそうです。しかし、このステッカーを貼っているからといって駐車禁止を免れたり、「しょうがい」者用駐車スペースが利用できたりするものではないそうです。ところがこの車いすマークのステッカーはだれでも手に入れることができるということもあってか、使用をめぐってトラブルが多発しているということも聞きました。

身体に何の支障もないのにマークのあるスペースに停める、ましてやステッカーを貼ってごまかすなどの行為は論外です。しかし許可証を持っていない人でもさまざまな事情で今そのスペースを必要とする人はいます。必要とするその事情は外見ではわからないかもしれません。そんな事情（ハンディ）を気兼ねなく周囲に伝えられ、周囲もそれを自然に受け入れられる、できればそんな関係が私たちの周りにできたら、と思います。

調べているうちに、このような関係づくりを目指す取り組みが徐々に広がっていることがわかりました。たとえば、関西のある私鉄では、これまであった優先座席をなくし、すべての座席が優先席であることを呼びかけているそうです。これは高齢者や身体の不自由な人、あるいは妊婦や乳幼児連れの人などが、一部の決められた座席に追いやられるのではなく、本当に必要な人が間近の席を利用できるようにという考え方からだそうです。また、札幌の地下鉄では優先席にあたる座席を「専用席」にしており、必要な人だけが座るようになっているそうです。そのためラッシュの時間帯でも若者や健常者が座ることはまれだという話も聞きました。

電車やバスの座席に座る、駐車場に車を停めるなどの日常の何げない小さな自分の行為や、見慣れたまちの風景の中に「一人ひとりの人権を大切にす自分・まち」なのかどうかが見えるように思います。

(文：古賀)

森田ゆり『多様性トレーニングガイド
人権啓発参加型学習の理論と実践』
2000年 解放出版社 3,600円



「この人は、ひととの話し方を知らんなあ」、偶然でしょうが生意気にもそんな感想を持つ機会が、あまりにも頻繁に続きました。たとえば、「聴いてください」と依頼しておきながら、聴かされる側からすると「本当に私に聴いて欲しいのかな」と疑わざるを得ないような話しかけ方をする人や、相手が必死の思いで気持ちを打ち明けているのに、なぜ自分に打ち明けてくれたのかを思いやれず「そんなこと私には関係ないよ」といわんばかりの受け答えをしてしまう人たちです。

他者への想像力の欠如と言えればそれまでも知れませんが、もっと技術的な問題のような気もしました。こんなモヤモヤへの答えを求めるなかで、森田ゆりさんの『多様性トレーニングガイド』を手にとりました。6年も前に出版された本なので、すでに読まれた方もいらっしゃるかと思います。私にとっては「人間関係にマニュアルなんか

通用しない」と、なかばバカにして遠ざけていた本です。読んでみると、男らしさ女らしさの問題を取り上げながら私たちが普段どれだけ簡単に他人の、そして自分自身の思いをないがしろにしているかを教えてくれたり、学習障害の子どもの手記を通じて、差別を受けている人が差別のせいでどれほどイライラしながら生活を送らなければならないかといったことに気づかせてくれたり、目を見ながら「自分は〜…」という言い方で話をするのが、対立した相手と和解するコツであることなどを具体的に実感させてくれる本でした。

もともとは森田さんが20年の経験のなかから、人権教育啓発研修会において講師がやるべきことを55パターンほど紹介した本です。ただ、学習法が練り上げられた舞台は、「人権のるつぼ」とか「サラダボウル」と呼ばれるアメリカ。そこは、個々人を、差別される側か差別する側かに二分することが不可能なほどに、人種や民族、宗教、性別や性的志向、しょうがいなどさまざまな違いによる差別が渦巻くところです。このため、興味深いことに、この本から身につけることの出来る力は、人種差別をなくすために身につけるべきこと、しょうがい者差別をなくすために身につけるべきことを超えて、いろんな立場の人とお互いを尊重しなければやっていけない状況のなかで、“私が個人として身につけておかなければならないこと”になっています。

人との対立を怖がり対話をさける傾向のある僕にとって勇気づけてくれる一冊となりました。皆さんもどうぞ。 (文：羽江)

人権センターのホームページができました!

みなさんのお宅にインターネットができるパソコンがあれば、

<http://www.city.ogori.fukuoka.jp/oh-rec/>

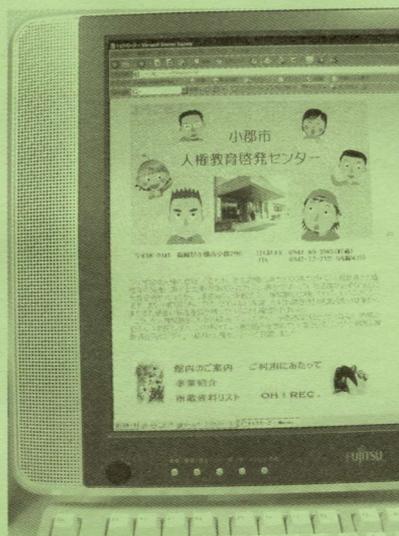
に接続してみてください。

「ようこそ!小郡市人権教育啓発センター」というページが出てきましたか?

人権センターが開所して4月で2年になりますが、開所当初からいろいろな方のアドバイスの中で宿題となっていた、念願のホームページがようやく公開できるはこびとなりました。

ホームページの構成は主に7つの画面からなっています。

1. トップページ(本の表紙や目次のようなページ ※写真)→
2. 館内案内(1階)のページ
3. 館内案内(2階)のページ
4. 事業紹介のページ
5. ご利用についてのページ
6. 機関紙“OH!REC.”のページ
7. イベント・資料・リンク集のページ (※完成していない部分があります)



市内はもちろん市外からも、これまでたくさんの方がここ人権センターを訪れてくださっていますが、このホームページで、より多くの方々により手軽に私たちの人権センターを知っていただき、より気軽に足を運んでいただけるきっかけになれば幸いです。(文:有田)

～ おさそい ～

巻頭の記事でもご紹介しましたが、下記の通り公開講座を行います。

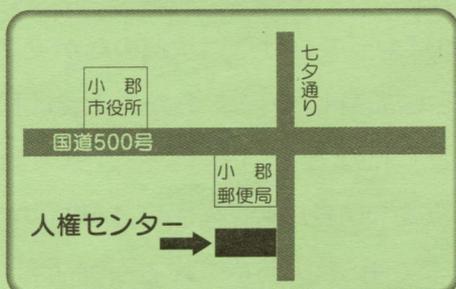
人権センター公開講座(3)「傷ついている子どもたちと…」(仮題)

<とき> 2月27日(火) 19:30~21:30

<ところ> 人権センター・大集会室

<講師> バスジャック事件を体験された 山口 由美子 さん
チャイルドライン@ふくおか 門田見 昌明 さん

☆たくさんの方の参加をお待ちしています☆



小郡市人権教育啓発センター

小郡市人権教育啓発センター

所在地:〒838-0141 小郡市小郡296

でんわ&Fax:0942-80-1080(直通)

E-mail:oh-rec@iwk.bbiq.jp

H.P. <http://www.city.ogori.fukuoka.jp/oh-rec/>